

学内 PC の省電力運用に係るガイドライン

1. 概要と設定方法

【概要】

PC 本体の電源設定を変更し、一定時間経過後にディスプレイの電源オフ、及び本体のスリープモード移行を自動的に行う「省電力モード」を活用する。

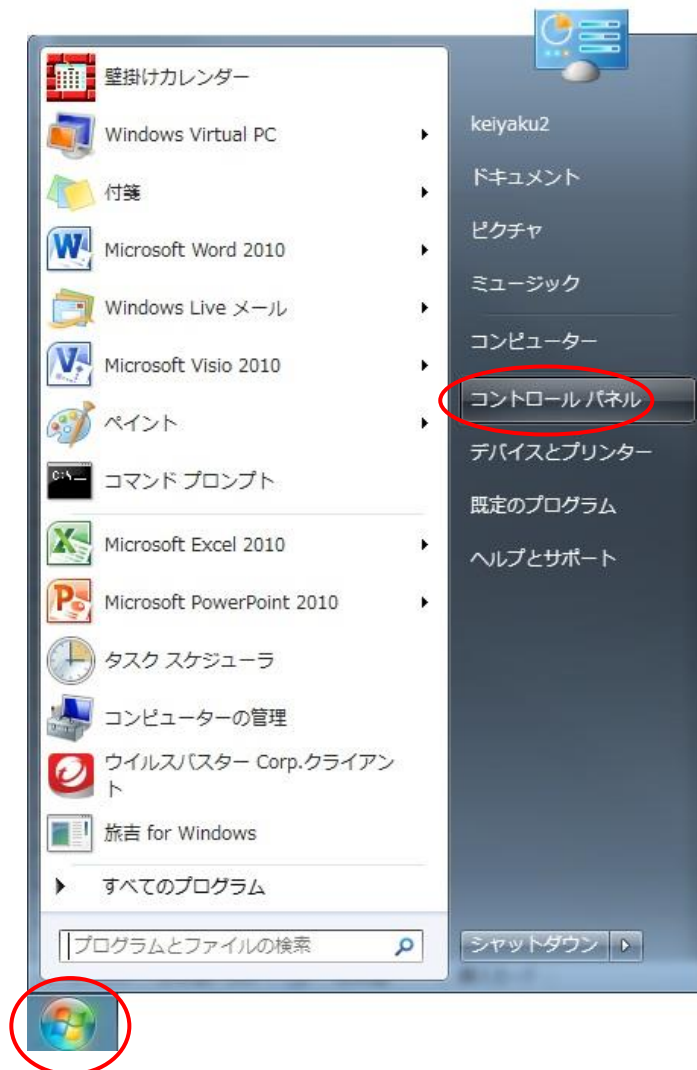
【設定方法】

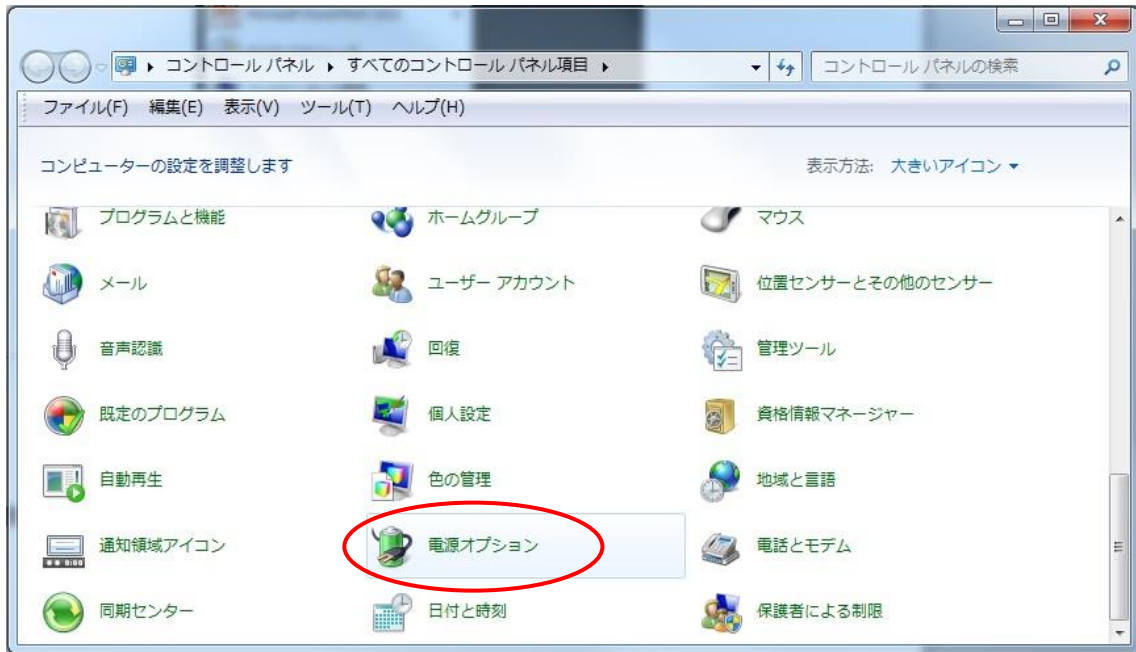
(参考 URL : <http://www.microsoft.com/ja-jp/windows/windows-7/guide/setsuden04.aspx>)

<Windows 7 での設定>

※Windows Vista の設定については、参考 URL を参照ください。

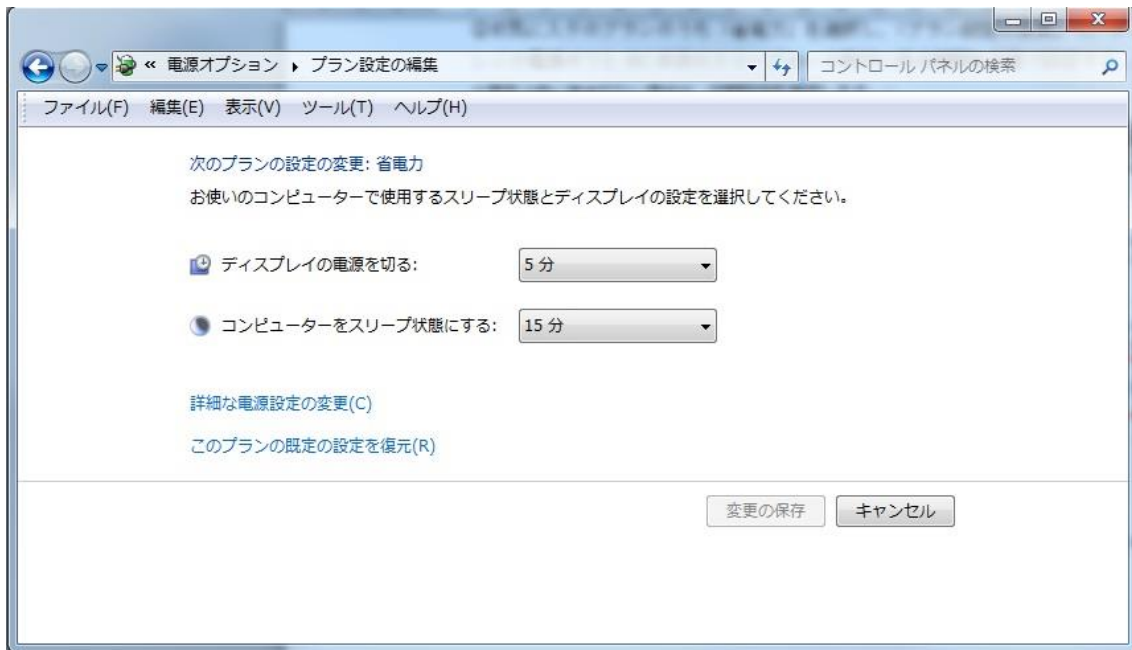
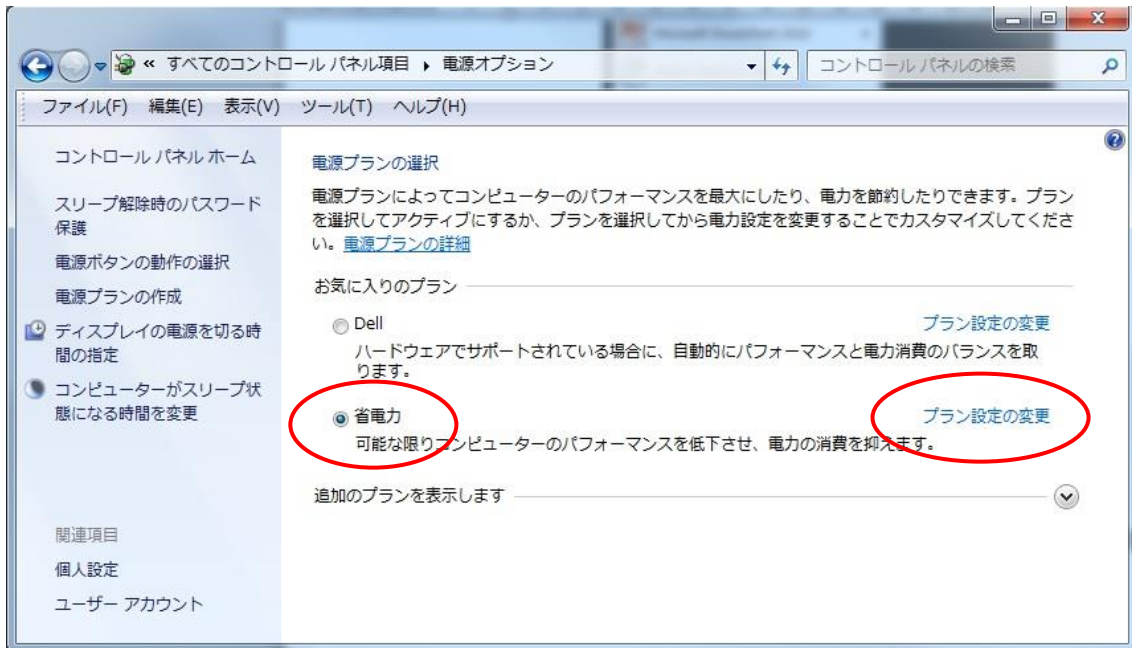
① 「スタート」 ボタンから 「コントロールパネル」 を起動し、「電源オプション」 を選択する。



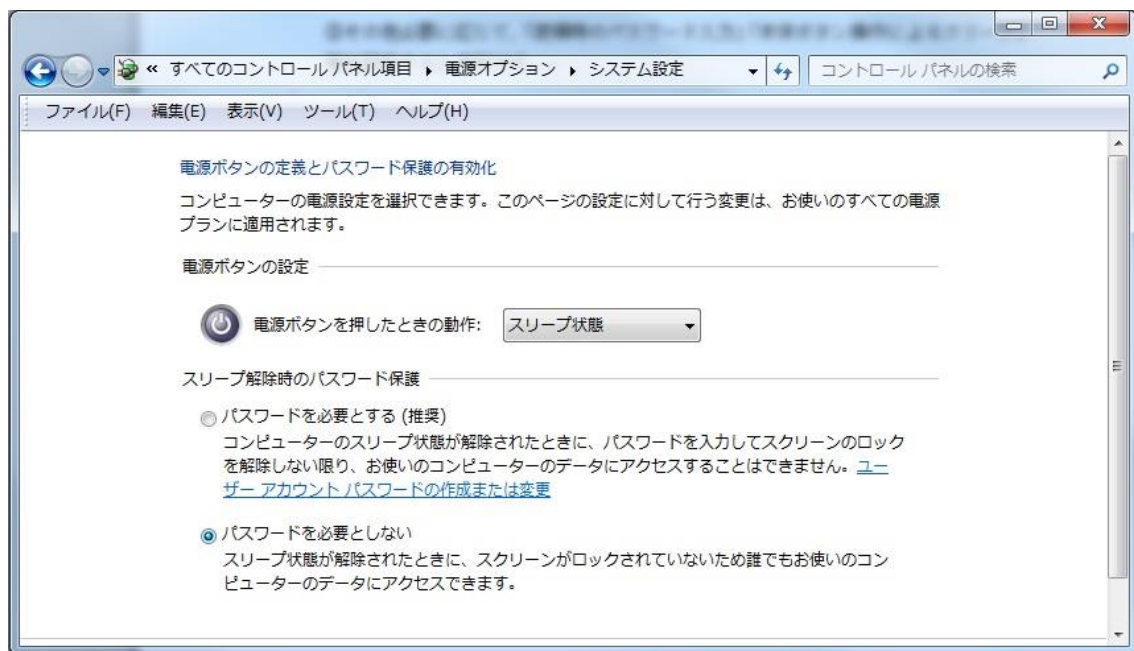
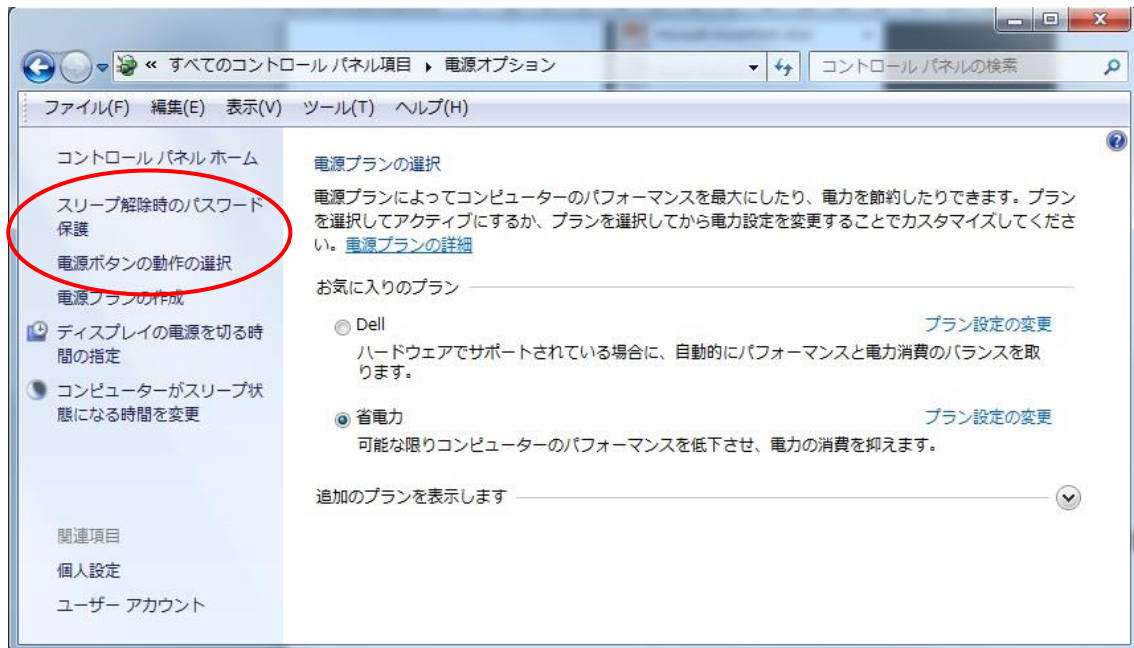


②お気に入りのプランのうち「省電力」を選択し、「プラン設定の変更」で、ディスプレイの電源オフと PC 本体のスリープモード移行に係る時間を任意で設定する。

※業務上特に理由がない場合は、初期設定を推奨します。



③その他必要に応じて、「復帰時のパスワード入力の有無」「本体ボタン操作によるスリープモード移行」等の設定をすると便利です。



【備考】

別途設定が可能な「スクリーンセーバー」については、節電を目的としたものではなく、却って電力を余分に消費する機能であるため、業務上必要である場合以外は極力使用を控えるようお願いいたします。

2. 費用削減効果について

【節電効果が現れる時間の目安】

スリープモード・・・約3分半以上で、つけっぱなし状態より節電となる。

シャットダウン・・・約39分半以上で、つけっぱなし状態より節電となる。

※PC及びモニターの一般的な消費電力、及びスリープモードとシャットダウンに係る消費電力と時間を算定し、独自に計算

また、約1時間40分以上PCを使用しない際は、スリープモードよりシャットダウンを活用した方が、より節電効果が高いことが分かっています。

(参考 URL : <https://technet.microsoft.com/ja-jp/windows/hh146895>)

【削減費用】

1日のうち、PC及びモニターを1時間つけっぱなしにした場合と、1時間スリープモードを利用した場合の電気料金を比較し、削減費用がいくらになるか算出する。

	① 使用時消費電力	② スリープ時消費電力	③ ①-②	④ 本学契約電気料金	⑤ 台数概算	削減額(/日) ③×④×⑤
PC本体	52W	1W	51W	14.28kWh/円	1,082 台	788.00 円
モニター	34W	1W	33W		1,082 台	509.88 円
合計						1,297.88 円

※⑤ 台数概算は、H22.4～H27.3間に備品として購入したPC及びモニターの合計としている。

表のとおり、試算による年間削減総額は、1297.88円×365日≒473,730円となり、470,000円以上であることがわかります。これに加え、システム付属端末等のPCも同様の運用を行うことで、さらなる削減効果が期待できます。

また上述のとおり、3分半以上の離席時はスリープモード、1時間40分以上の離席がある場合はシャットダウンをこまめに各自活用することにより、更なる効果が見込まれます。

3. 注意事項

①スリープモードから復帰する際は、立ち上がりに数秒ほど時間を要します。また、ネットワークも再接続に数秒かかります。

このため立ち上がり直後にインターネットや共有サーバーを開こうとすると、不具合が生じる恐れがありますので、ご注意ください。

②データ抽出作業中に PC を放置する場合、抽出作業中にスリープモードに移行するとエラーが発生する恐れがあります。長時間データ処理中の PC を放置する必要がある場合は、スリープモードに移行しないよう設定を変更することを推奨いたします。

③帰宅時など PC の終了を終える際は、スリープモードのままにはせず、必ず電源をオフにするようにしてください。なお併せてモニターの電源もオフにすることで、余分な待機電力を消費せず、節電効果が高まります。